

広報 もり 中部の森林

私の森語り「お客様の隣で「これまで」と
「これから」を刻み続ける時計たち」
(有)キコリ・デザイン研究所 内田 英樹

写真：中部の森林フォトコンテスト2025 より
テーマ「山の仕事にスポットライト」応募作品「木曽の架線集材」（南木曽支署管内）

特集

- ・ 架線集材技術の継承に向けて
～伐採・搬出における林地保全と効率性～
- ・ 技術開発と人材育成の取組

シリーズ

- ・ 現場最前線からの便り、私の森語り、中部の保護林



林野庁中部森林管理局

2026/No.261

架線集材技術の継承に向けて

～伐採・搬出における

林地保全と効率性～

再注目される架線集材

中部森林管理局の若手職員を対象に、令和八年七月七日から九日までの三日間、岐阜森林管理署管内の国有林において架線集材研修を開催しました。

六月に閣議決定された新たな「森林・林業基本計画」では、気候変動への対応に加え、地球温暖化の防止や生物多様性への気運の高まりを背景として、森林の有する公益的機能の発揮と森林資源の循環利用に

向けて、多様で健全な森林がバランスよく配置されるよう取り組むとされています。

中部森林管理局では、貴重な森林資源を有効活用すべく、森林の整備を進めながら木材生産に取り組むこととしており、木材の搬出については、緩傾斜地では車両系林業機械を活用するシステムを推進するとともに、急傾斜地や急峻地では架線系システムを推進し、地域特性に応じた技術の向上と普及に取り組んでいます。

架線集材とは…森林内に架設したワイヤーロープ（架線）を利用して、伐採した木材を空中で運搬する集材方法（作業システム）です。急峻な地形でも木材を効率的に搬出できるほか、作業道の開設や重機の走行を抑えることで森林土壌への影響を軽減できるため、木材生産と林地保全の両立に有効な技術として活用されています。

森林資源の循環利用の推進



研修内容



架線集材で搬出される木材（赤の破線部分）
（南木曽支署管内）

架線集材は、事業現場の傾斜（地形）や木材を移動させる距離（搬出距離）、伐採方法（皆伐か間伐か）などにより使用する機械や索張り方式（架線の張り方）が異なります。このため、各種機械や索張り方式の特徴などを学ぶ必要があることから、研修の初日は資料や動画を活用した座学を行いました。

集材機や自走式搬器、タワーヤード、スイングヤーダなど、それぞれ

の特徴と、エンドレスタイラーやダブルエンドレスなどの索張り方式について理解を深めました。



座学の様子（森林技術・支援センター内）

講師による架線集材に関する基礎的な内容の解説後、想定した作業地ではどの索張り方式を選択して設計するのか、留意するべき点は何かなどを研修生がそれぞれ発表し、意見交換を行うことにより架線設計に対する理解を深めました。

研修生からは「架線集材で用いる用語の解説や模式図により、架線集



ミニ電動集材機による演習（岐阜森林管理署管内）

材の方法について理解できた」「正式な用語や方法の名称だけでなく略称も聞けて、より現場の知識が身についた」といった感想が出されました。

二日目は、実践により座学の知識をさらに深めるため、現場で使用される機械や器材を小型化し、コミュニケーションができる「ミニ電動集材機」を用いて、架線の組立から解体までの実演と現地演習を行いました。

架線集材に用いる機械の例

・スイングヤーダ：建設用ベームマシンに集材用ウィンチを搭載し、アームをタワーとして使用する。集材できるのは短距離ではあるが、簡易に索張りできるのが特徴。



・タワーヤード：人工支柱を装備した移動可能な機械。急傾斜地での作業に向いているのが特徴。

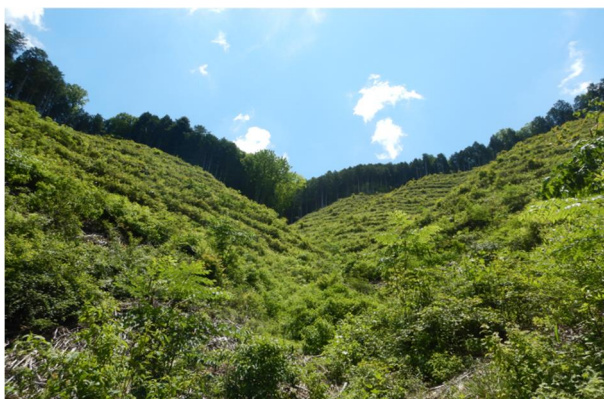


演習では、エンドレスタイラー方式による索張りを、実際と同じように支柱間にワイヤーを張るところから始め、電動集材機を操作するこ



ミニ電動集材機を操作する研修生（岐阜森林管理署管内）

とにより搬器（木材を運ぶ装置）や、ワイヤーの動き、支柱と滑車が果たす役割などについて、より一層理解を深めることができました。



演習地の赤沼田国有林（岐阜森林管理署管内）

索張り方式の例
エンドレスタイラー方式…森林内に張ったワイヤーの上を搬器（木材を運ぶ装置）が移動し、集材する方式。ローリングブロック（木材を吊るす部分）をワイヤーで動かし、広い範囲を集材できるのが特徴。
ダブルエンドレス方式…2本の循環するワイヤーを利用して集材する方式。長い距離の集材に適しているのが特徴。



現地踏査を踏まえた線形を検討する研修生

研修生からは「電動集材機の使用や索張りを実際に行うことで、（ワイヤーを固定する）クリップの向きや作業内角の場所など注意すべき点への理解がより深まった」との感想が聞かれ、安全に対する意識を高めることもできました。

現地演習では伐採跡地において、集材の際に使用された痕跡を基にどのように作業したのかを班ごとに推測しながら、どう設計するか検討を行いました。

「現地踏査することで図面上では分からなかった微妙な地形のう

ねりや柱になる立木を探すことで設計における現地踏査の重要性が分かった」との感想が出されました。最終日となる三日目は、現地踏査を踏まえ、検討した架線設計を班ごとに発表し、設計にあたり留意した点や現地踏査の際に心がけた点、気づいた点などを意見交換し、架線集材について理解を深めました。

今後の展望

今回の研修では、架線集材に関する基礎知識の習得から、実習・現地踏査・設計まで体系的に学ぶなかで、架線集材への理解を深め、日頃の業務の一助になったという意見が多く出されました。

今後も、より実践的な研修を充実させることにより、架線集材技術の継承に取り組むとともに、生産事業に携わる職員の技術力向上と安全意識の醸成を図りながら、効率的な事業運営に取り組んでまいります。

【資源活用課】

技術開発と人材育成の取組

「森林技術・支援センター」

森林技術・支援センターは、平成七年に下呂営林署と小坂^{おさか}営林署の統合に伴い「森林技術センター」として発足し、その後二度の再編を経て、平成二十五年に現在の名称となりました。

令和四年度には新庁舎が完成し、中部森林管理局管内の庁舎として初めてCLT工法が採用されたほか、木質バイオマス燃料（ペレット）



周囲の景観と調和するデザインの森林技術・支援センター庁舎
外部を含む多くの方へ施設見学を行ってきた

ボイラーが導入されました。ペレットの利用は、間伐材や未利用材の有効活用につながり、政府が推進する持続可能な開発目標（SDGs）を実現する施設であることから、機会あることに見学いただいています。

当センターでは、民有林経営への普及を念頭として、林業の低コスト化等に向けた技術開発や普及を促進するとともに、現地検討会や研修を通じて、民有林を含めた人材育成への支援などに取り組んでいます。今回は「技術開発」と「人材育成」に分けてその内容を紹介します。

【技術開発に関する取組】

林野庁等の「技術開発基本目標」に基づいて行う「技術開発課題」が三課題と、当センターが自主的に行う「自主課題等」があり、それぞれの内容と設定箇所は下段の一覧表に示すとおりです。
「技術開発課題」は現在、三課題に取り組んでいます。

項目		課題名	国有林	林小班
技術開発課題	林野庁統一課題	超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用	マツ谷	20と1
			七宗	1246い2
	中部森林管理局技術開発課題	ヒノキ単層林への侵入広葉樹を活用した効率的な針広混交林造成	湯舟沢	2237と・2242は
		コウヨウザンの成長速度と生育適地の把握及び初期保育技術の検討	神割	1082へ
自主課題等	自主課題	ヒノキ・ナラ・ホオノキの混交植栽試験地	大洞	225に
		人工造林による単層林への侵入広葉樹を活用した針広混交林造成試験	本洞	1043ほ
		ヒノキコンテナ苗と下刈り省略の組合せによる初期保育技術の開発	本洞	1049ほ
			湯舟沢	2206ぬ
	実験林	ヒノキ本数密度実験林	彦谷	3032れ
		ヒノキ2代目造林実験林	小川長洞	1112わ
		スギ本数密度実験林	小川長洞	1105た・む
	成長等試験地	御岳トウヒ・シラベ林分成長固定試験地	小川長洞	1112い
		赤沼田ヒノキ人工林成長試験地	小川長洞	1113は
	展示林	ヒノキ間伐展示林（定性・列状）	落合	65ほ
		七宗大径材生産展示林	赤沼田	232い・ろ
	施業指標林	ヒノキ人工林長伐期施業指標林	小川長洞	1114ほ
		複層林施業指標林	七宗	1207ち・1211は
		間伐推進指標林	乗政	1127に
		複層林における植栽木の成長試験	小川長洞	1106へ
			大洞	192へ
		スギ人工林長伐期施業指標林	七宗	1234い
		ヒノキ人工林長伐期施業指標林	落合	18に・か
			落合	39ぬ
			七宗	1241ほ
			落合	96ろ

超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用

林野庁統一課題の本課題は、令和七年十一月発行の広報誌「中部の森林」二五六号に特集として紹介しています。昨年、飛騨署のマツ谷国有林に試験地を設定しましたが、新たに岐阜署の七宗国有林にも設定し、超緩効性肥料による成長促進効果やエリートツリー等の植栽適地についての検証を進めています。

「中部の森林」
二五六号はこちら↓



林野庁統一課題に使用する3種の苗

ヒノキ単層林への侵入広葉樹を活用した効率的な針広混交林造成



「ヒノキ単層林への侵入広葉樹を活用した効率的な針広混交林造成」(湯舟沢国有林)

人工林の育成を目指した造林地に侵入したミズメやウダイカンバ等の広葉樹を活かして「多様な森林」(針広混交林)へ移行するためには、どのように保育を行ったらいいかを検証しています。保育の過程、特に下刈と除伐に注目し、東濃署の湯舟沢国有林の林齢一〇年生及び十二年生の造林地にて取り組んでいます。

コウヨウザンの成長速度と生育適地の把握及び初期保育技術の検討

中国南部、台湾を原産とする常緑針葉樹の「コウヨウザン」は、スギと同程度の強度を有し、比較的短期

間で成長・収穫が可能です。西日本等の温暖な地域では、早生樹として期待され植栽事例があるものの、寒冷な地域では事例が少ないことから、生育適地を把握するため、岐阜署管内の標高五〇〇m^{以上}から一、〇〇〇m^{以上}の三箇所(神割・大洞・本洞国有林)に試験地を設けて成長調査等を行っています。



「コウヨウザンの成長速度と生育適地の把握及び初期保育技術の検討」(本洞国有林)

「自主課題等」は、主に岐阜署管内に設定されています。おおむね三年から五年の間隔で継続調査を行います。中には十年間隔の場所もあります。調査後は結果を整理し、当センターのホームページへ掲載

しています。

【人材育成の取組について】

当センターでは、研修や現地検討会等を通じて、民有林を含めた人材育成に取り組んでいます。今回は六つの取組を紹介します。

①学生の国有林現地実習

岐阜署と共催し、岐阜県立森林文化アカデミー・エンジニア科の二年生を受け入れています。今年度の実習の様子は、中部局ホームページの「各地からの便り」六月の行事に紹介しています。(コード参照↓)



森林文化アカデミー現地実習
(ヒノキ長伐期施業林)



架線集材研修
設置を行うことで集材架線の仕組みを理解する

岐阜署管内の乗政国有林「ヒノキ長伐期施業林」、小川長洞国有林「ヒノキ間伐展示林」、民有林ではあまり見ることができない中間温帯(暖温帯と冷温帯の中間)の天然林の見学等を行います。このほか、学校からの要請に応じ、国有林の案内や情報提供に努めたいと考えています。

②架線集材研修

かつての木材生産事業現場では、職員が架線集材に関わる機会が多くありました。現在は車両系集材が主流となり、架線集材に関する知識や経験を持つ職員も減少しており、中部局では知識と技術を継承するため、令和七年度から本研修を開始

しました。今年度の研修の詳細は、一から三ページに掲載しています。

研修で利用したミニ電動集材機は、以前は当センターの旧庁舎に常設し、研修等で活用していましたが、新庁舎内に設置できなかったため、当センターの作業所敷地に移設しました。今後もミニ集材機を活用して架線集材の技術を継承したいと考えています。

③先進技術研修

国有林では航空レーザ測量や無人航空機(以下「ドローン」)を活用することで業務の効率化を推進しています。本研修は自治体職員など民有林からの参加も受け付けています。

研修では先進技術の紹介やその活用方法を学びつつ、各署等に配置しているドローンを使用して基本操作を習得します。さらに自動飛行により得られた連続写真から、画像処理ソフトウェアを使用してズレやゆがみのないオルソ画像の作成を行います。オルソ画像から面積や距離を正確に計測できるため、GIS上で活用することにより森林資源や路網、災害地の状況等を、直接

現地へ向かうことなく効率的に把握することが期待できます。



先進技術研修(無人航空機の説明)

④無人航空機操作講習会

当センターが所在する下呂市を含む近隣の自治体職員(主に林務担当者)に向けて、令和二年度から開催しています。民有林においてもドローンは活用されていますが、担当者や一部の事業者などに偏っていると思われる。森林の経営・管理にあたり活用を図るため、操作に習熟した者のさらなる育成が必要と考えています。

講習会では関係法令・基礎知識に

関する座学の後に、ドローンの飛行実習を行っています。参加した自治体職員からは「林道災害時に危険な場所や対岸等からの被災地の確認に役立つと思う」などの感想があり、今後も活用の普及に努めたいと考えています。



無人航空機操作講習会(飛行実習)

⑤森林総合監理士等の育成

林野庁では地域の森林づくりを総合的に支え、市町村や林業関係者に技術的な指導・助言を行う人材として「森林総合監理士(フォレスト)」の育成を進めています。

令和七年度、林野庁では全国を五



地域森づくり構想技術者育成研修（現地実習）

ブロックに分け、「地域森づくり構想技術者育成研修」を委託事業として実施し、中部ブロックは下呂市内が拠点となり、当センターは研修運営のサポートにあたりました。

四日間の研修では、ICT技術等を活用した効率的・効果的な木材生産の基盤となる路網計画を含む、総合的な地域の森づくり構想を行ないます。七宗国有林を集約化すべき民有林と見立てて、路網計画や事業計画をたて、市町村の林務担当者へ提案する想定です。

都道府県と市町村、民間や国有林から参加した研修生達は班に分かれて図面上での構想の後、現地での

踏査も行い、GISや路網設計支援ソフトを使用して路網計画を検討、林業成長産業化の観点から事業計画を作成しました。

参加者の年齢層は幅広く、初対面の方が大半でしたが、メンバー一丸となつて取り組み、最終日には、班ごとにプレゼンテーションと議論を行いました。

研修生からは「所属の垣根を越えて議論が交わせたことで、民国連携による地域林業の発展への展望が見いだせた。」などの声が聞かれ、技術者養成への一助となる研修となりました。

今年度、この研修の流れをくむ「地域森林・林業ビジョン構想技術者育成研修」が下呂市を拠点に実施される予定であり、引き続き研修運営のサポートに努めてまいります。

⑥ニホンジカ食害防除対策現地検討会

ニホンジカによる森林被害が深刻化する中、国、県、市町村、事業体等が情報共有を図り、効果的な対策を行うことを目的として、中部局、岐阜署、当センターが共催し平成二十八年度から開催しています。

ニホンジカ食害防除対策現地検討会
（センサー付き囲い罠）

午前中は、岐阜県森林研究所の専門研究員から「ニホンジカ対策の現状と課題」と題してニホンジカの生態、林業被害、対策に関する講演や、局担当者から中部局管内の獣害対策の紹介等の座学を行います。

午後は岐阜署管内の七宗国有林「獣害対策展示エリア」内の単木保護資材、防護柵、センサー付き箱罠・囲い罠について、開発メーカーを含めた担当者からの説明や、意見交換を行います。「小林式誘引捕獲法（くくり罠の周囲に石や誘引するため餌を配置して捕獲する方法）」の

実演や、クマの錯誤捕獲防止用の改良罠の紹介等も行いました。

ニホンジカ被害対策では、防護（守りの対策）と捕獲（攻めの対策）の両方を効果的に組み合わせる必要があり、今後とも検討会等を通じて民国の関係者が情報を共有し、一体となった対策を着実に推進していくことが重要だと考えています。

当センターでは今回紹介した取組を通じて、森林技術の普及・定着、地域の林業振興に寄与していきたいと考えています。

【森林技術・支援センター】

ニホンジカ食害防除対策現地検討会
（小林式誘引捕獲法の実演）

岐阜県に生育・分布する

最南限のミズバショウ群落

やまなかやま

山中山希少個体群保護林

設定目的

岐阜県に生育するミズバショウのうち、最南限に分布する貴重な群落を保護しています。

地況

岐阜県中部の小起伏の山地（標高一、三三五メートル）に位置する山中山峠は、日本海側と太平洋側に分かれる分水嶺となっています。気候は、日本海側の特徴である多雪地帯であり、推定年平均気温は六度と冷涼で、枯れた植物が分解されず堆積した泥炭土が広がっています。

シリーズ

中部の保護林(第56回)



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイアルイン：026-236-2612

※詳細は、コードを読み込んでください。



シリーズ



現場最前線からの便り

国有林の現場の最前線となる森林事務所・治山事業所等の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【南信森林管理署】

下諏訪森林事務所 しもすわ

首席森林官 谷口 直幸 たにぐち なおゆき

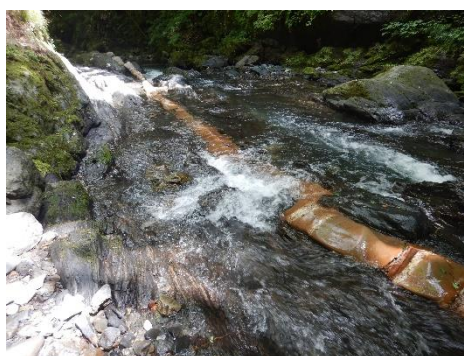
下諏訪森林事務所は、長野県の中

央部に位置する諏訪郡下諏訪町に所在し、日本最大の断層湖として知られる諏訪湖の北岸に広がる東侯国^{ひがまた}国有林一、六六八^{へち}ヘクト、上伊那郡辰野^{たつの}町の横川溪谷周辺の横川国有林三、五九六^{へち}ヘクトを管轄しています。

東侯国有林は、カラマツを中心とした人工林・天然林が混在しています。標高が高く積雪量も多いため、林内の保水機能が高く、諏訪湖へ注ぐ河川の水源涵養林として重要な役割を担っています。また、近年はニホンジカによる食害の対策が重要な課題となっており、防護柵の設置や個体数管理など、関係機関と連携した対策にも取り組んでいます。

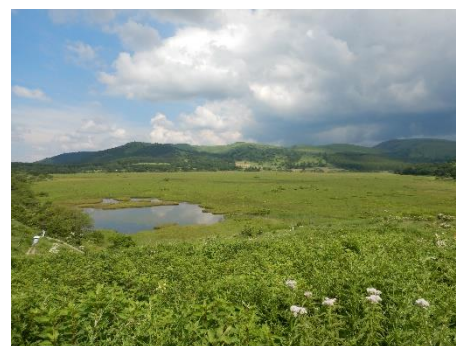
一方、横川国有林は、カラマツやアカマツを主体とした人工林と天然林が調和した森林景観が特徴です。横川溪谷内には、長い年月をかけて形

成された巨岩「蛇石」や四季折々の美しい自然景観に恵まれ、ハイキングや自然観察の場として親しまれています。



国の天然記念物「横川の蛇石」
川底に横たわる蛇のように見える

また、諏訪地域は長野県を代表する観光地としても知られています。日本有数の湖である諏訪湖では湖上花火大会や遊覧船が人気を集め、周辺には有名な諏訪大社四社があり、ます。下諏訪町には中山道と甲州街道が交わる宿場町として栄えた歴史が残し、温泉街や歴史的な街並みを目的に多くの観光客が訪れます。さら



国の天然記念物「八島ヶ原湿原」
日本を代表する高層湿原の一つ

に、霧ヶ峰高原や八島ヶ原^{やしま}湿原では高山植物や雄大な眺望を楽しむことができ、四季を通じて登山者や自然愛好家で賑わいます。こうした観光資源を支えているのは、周辺に広がる豊かな森林の存在です。

当森林事務所では、これらの森林を適切に管理するため、造林や間伐などの森林整備事業の監督、林道施設の点検、保安林機能の維持管理、各種調査業務などを行っています。現場では事業の進捗確認や安全指導を行いながら、森林の公益的機能が長期にわたり発揮されるよう取り組んでいます。

また、七年に一度開催される諏訪大社御柱^{おほしらぎ}祭の開催が令和十年に迫っており、管内の国有林は御用材^{ごようざい}を産

出する森林としても知られています。御柱祭は、モミの太木を山から曳き出し、諏訪大社上社・下社四宮の四隅に建てる千年以上の歴史を持つ伝統行事であり、その開催に向け、支障が無いよう関係機関、団体と連絡を密に事業を進めています。

【未来の担い手へのメッセージ】

森林官の仕事は、森林や自然環境に関心がある方はもちろん、地域づくりや防災、環境保全に携わりたい方にも魅力のある仕事です。自然相手の仕事なので、予定調和で物事が進まないことが多いですし、専門知識が必要な場面もありますが、国有林を守り育てる仕事に興味を持たれた方は、ぜひ森林官という仕事に挑戦してみてください。未来の森林を支える仲間をお待ちしています。



御神木春宮一之柱と筆者

シリーズ

私の森語り

もりかた

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



「お客様の隣で「これまで」と「これから」を刻み続ける時計たち」



キコリ・デザイン研究所
代表
内田 英樹

■自己紹介

「キコリ・デザイン研究所」は、西の上高地と東側の秩父山地、それぞれを水源とする犀川と千曲川が合流するあたり、周囲を山に囲まれた長野市にある小さな木工房です。

■活動内容

信州には、カラ松があります。戦後に多く植林されたこの木は、ヤニが多く、比重に大きな差がある木目のため、加工し難い材とされてきました。その反面、美しい木理と、優れた強度を持ち、脱脂乾燥技術の進歩とともに、長野県を代表する木材の一つとして利用されてきました。キコリがこの木材の美しさに魅せられ、木の時計を作り始めたのは、今から四〇年くらい前のことです。



振り子のサカナが左右に揺れながら口をパクパク開閉したり、ネコが魚を見上げてしっぽを振ったり、ふくろうが時を知らせる鳩時計だったり、少し変わった掛け時計です。最近、特にご依頼が増えてきた修理品についてのお話です。

一〇年、二〇年と長く大切に使用して頂けたものを拝見するのは本当に嬉しく、新しい時計の開発にも参考になります。そのため、修理依頼はできるだけお受けしてきました。ほぼ毎日、いろいろな時計が届きます。落下により、枠がバラバラになったもの。二〇年以上押入れて眠っていたもの。斬新な芸術的センスにより色鉛筆で彩色されたもの。キラクターシールで埋め尽くされたもの。飼った猫にクジラの尾が噛みちぎられました、というダイナミックなものまで。

私は木工品を修理するにあたり、心掛けていることがあります。それは「完璧」に直さないということです。ある展示会でお客様からいただいた一言です。「先日、時計を修理に出したらネコの顔が新品で真っ白になっていて心底がっかりした。」当時、仕上がりは新品に近いほうが喜ばれるだろうと思い、一生懸命拭いたり、磨き直したり、再塗装したり、動きを良くするため、交換できる部品は新品にしてみました。

時計は何年も毎日休むことなく、人の隣で時を刻み続けます。木の枠の色褪せも傷も歴史として残り、年月が経つほど深みが増します。カラ松は丁寧に入入れられて使いこまれると、経年変化により表面は脂分で艶が出て、色は赤みを帯びた飴色になります。

お客様の今までを大切にし、これからは刻んでいけるよう修理する。埃、汚れだけ拭き取り、色褪せや傷はそのままに。枠の割れは丁寧に接着し、なるべく色が変わらないように磨く。色鉛筆の落書きもシールもそのままに。クジラの尾は同じ種類のもので作り直しました。

一九九五年、阪神淡路大震災が発生しました。一年ほど後に、「被災し

た時計をほぼ材料費のみで修理する」というサービスを行いました。

当時、神戸から送られてきた修理依頼品は、チャイムが鳴る、高さが六〇センチくらいの弊社の製品では一番大きな時計。文字盤前の扉の幅四センチ厚さ三センチのカラ松材の枠がネジ切られていました。人が乗ったくらいでは折れない木が真っ二つです。震災の大ききの片鱗を目の当たりにし、絶句したことを覚えていいます。損壊が大きすぎて修理が困難なため「新品に近いものを同じ金額にするので全部交換してはどうか」とご提案。少しご検討されたお客様の答えは「修理依頼」でした。「直しきれない傷が残ったとしても、それも思い出として残したい。」想像を絶する大変な経験をされたはずなのに、その先も思い出として残したいとするその決断。交換の提案をした自分を反省しました。

■メッセージ

時間と共に愛着が増し、人と一緒にずっと永く思い出を繋いでいけるように、ペットのような、家族のような、そんなものを作っていけたらと思います。

■連絡先

(有)キコリ・デザイン研究所

長野県長野市若里七丁目二二二



各地からの便り

新たな地元の魅力を発信

〜新作クラフトビール開発！〜

【東濃森林管理署】

八月六日、中津川市の企業と大学が、新作クラフトビール開発の取材の一環として当署を来訪しました。

中津川の林業の歴史や関わる人にスポットを当て、ビールの味や物語への置き換えを目指すという今までにない切り口の企画です。署では裏木曾地域の木材搬出の歴史や森林施業を説明、ヒノキ林イメージの参考としてヒノキの精油を用意しました。新作ビールの発表は十一月。どんな出来上がりか、今から楽しみです。



中津川 BREWERY のクラフトビール

新しい防災気象情報の情報体系とその名称

	河川氾濫 1 飯沼川などの 大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や 大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地の崩壊や 土石流	高潮 海水面上昇や 波の打上げによる浸水	(警戒レベルごとの) 住民が とるべき行動
警戒レベル 5 相当	レベル5 氾濫特別警戒	レベル5 大雨特別警戒	レベル5 土砂災害特別警戒	レベル5 高潮特別警戒	命の危険 直ちに安全確保！
＜警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！＞					
警戒レベル 4 相当	レベル4 氾濫危険警戒	レベル4 大雨危険警戒	レベル4 土砂災害危険警戒	レベル4 高潮危険警戒	危険な場所から全員避難
警戒レベル 3 相当	レベル3 氾濫警戒	レベル3 大雨警戒	レベル3 土砂災害警戒	レベル3 高潮警戒	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意	レベル2 大雨注意	レベル2 土砂災害注意	レベル2 高潮注意	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
警戒レベル 1	早期注意情報				災害への心構えを高める

今年五月から、防災気象情報を五段階の警戒レベルにあわせて発表する新たな仕組みが始まりました。詳細は気象庁ホームページをご覧ください。秋の長雨や台風への備えを進めましょう。



秋の長雨に備えて新しい
防災気象情報の確認を！



中部の森林フォトコンテスト 2025 より
優秀賞「黄昏時の一踏ん張り！」

第三回中部の森林フォトコンテストでは、「森と人々未来へつなぐ山での営み」をテーマに、森や木と人の関わりをとらえた作品を募集しています。山で働く人の姿だけでなく、山で楽しんだり学ぶ様子や、木工作品に取り組み姿など、山と木にまつわる様子を広く対象としています。お出かけの際に見つけた、とっておきの一枚をお待ちしています。 ※応募締切は十二月二十日（日）

とっておきの一枚
お待ちしております

各地からの便りは、ホームページへ詳細を掲載しておりますのでどうぞご覧ください。

各地からの便り



広報「中部の森林」261号
発行：林野庁中部森林管理局
編集：総務企画部 総務課 広報



〒380-5875 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
<https://www.rinya.maff.go.jp/chubu>

メールマガジンへ登録いただくと、広報「中部の森林」の発行日に URL を配信します。

(奇数月の発行を予定)

メールマガジンの登録サイト

<https://mailmag.maff.go.jp/m/entry> において

配信を希望するメールマガジンの中から

中部森林管理局広報「中部の森林」を選択して下さい。